令和２年度　学校評価　パワーアッププラン

学校名　　丹波市立春日部小学校

○目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	本年度の重点目標
心豊かにつながり、夢と勇気を持って挑戦する春日部っ子 ～みつめ、みいだし、みらいを創る～ ・学ぶ感動、集う楽しさ、働く喜びのある学校 ・保護者・地域社会の期待に応え信頼される学校 ・地域の「人」「自然」「もの」を活かした教育活動を大切にする学校	・授業のUD化を基盤に「わかった」「できた」を実感し、深い学びを実現する授業づくり ・「自己肯定感」「自己有用感」「自尊感情」の育成による安心して学べる環境づくり ・児童・保護者・地域の願いに期待に応える地域とともにある学校づくり ・はるべの郷の「人」「自然」「もの」を活かした教育活動の推進

○自己評価　　**○学校関係者評価**

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	学校の取り組み状況と改善の方策	自己評価の各観点に対する評価
学校運営	危機管理	○新型コロナウイルス感染拡大防止のための適切な対応と指導 ○防災アドバイザーの派遣による学校防災体制の見直しと強化 ○いじめの未然防止、早期発見、早期対応や不登校ゼロを目指した取組	A	・健康観察カードを作成し、検温を中心に家庭における児童の健康観察を徹底した。 ・マスクの着用や手洗い、教室に入る前の手指消毒、換気など教職員で３密にならない環境を整えるとともに児童への指導を行った。 ・給食の前には、手洗い・手指消毒をし、食べるときには席を離し、前を向いて食べるよう指導を行った。 ・年間３回防災アドバイザーの方に来ていただき、学校防災計画の見直しや、防災訓練の工夫改善を行った。 ・教職員の明るい笑顔や言葉掛けで何でも話せる雰囲気の醸成を図り、毎学期に実施するいじめアンケートや日々の見取り等を活用して、児童の悩みや訴え等の早期発見並びに問題行動や不登校への即対応に努めた。 ・毎職員会議において気になる児童の様子を職員間で交流しながら共通理解を図り、指導方法を統一して全職員で組織的に関わった。	○十分な体制が行われていると評価する。 ○新型コロナへの対応は、世間で広く認知されている通り、実行できている事を評価したいと思う。コロナ感染が治まるまであと一息だと思う。頑張っていただきたい。 ○コロナ対策だけでなく熱中症対策など、子どもの安全を第一に考えた取組がされていた。 ○不審者情報の共有や対応が迅速になされていた。 ○安全安心な環境を提供する事が最優先であることから、徹底したコロナ対策は大変評価できる。 ○防災教育は外部アドバイザーによることに意義があり評価できる。 ○いじめ対応は現況の取組を評価できる。更なる教職員間での情報共有、場合によっては地域との連携も必要と考える。 ○コロナ禍により、他人に迷惑をかけない点や自己管理についてより深く学ぶことができたのではないかと思う。 ・いじめの件は、最初何気なく始まってしまう事が常だと思う。子ども同士の認知レベルの向上を常日頃から話して伝えていただければうれしく思う。 ・携帯電話やタブレットの使用率の低年齢化によるSNS等でのいじめの多様化が心配されるため取組が今後更に求められる。
	保護者・地域住民との連携	○学校運営協議会「コミュニティ・スクール　春日部　かすかべっ子はぐくみたい」の運用による地域とともにある学校づくりの推進(ふるさと学を含む) ○あいさつ運動や基本的生活習慣の確立 ○家庭学習習慣や家庭教育の充実を図る取組	B	・アンケート結果から、「春日部地域のことが好き」という回答が、昨年より11％も増えた。コロナ禍ではあったが、地域で栗や黒枝豆などの収穫をさせていただいたり、名人鉄人の学習でゲストティーチャーを招き、技術だけでなく心構えなども教えていただいたりできたことなどが児童にとって良い影響を与えていると考えられる。 ・今年度、地区懇談会は、中止となった。教職員が保護者の方と担当学年を越えて話ができる良い機会なので、参加しやすく有意義な時間となるようなテーマ設定の工夫などを考えていきたい。 ・児童アンケートから「自分からあいさつをしているか」の回答では、昨年に比べ８％も増えた。しかし、自分から進んであいさつしていると感じる場面は少ない。今年度は、児童会が中心となり、１２月にあいさつ運動を実施したが、あいさつの質も高めていけるよう、学期毎にあいさつ運動を行い意識付けできる機会が増えるように計画していく。 ・保護者アンケートで、とりわけ低い評価だったのが、家庭読書、家庭学習についての項目である。今年度は家庭で過ごす機会が増えているが、意欲が低下しているかもしれない。学習の定着(時間、質、タイミング)も含め、今以上に保護者の方との連携を図っていく。 ・忘れ物をなくす取り組みを個別にはしているが、なかなか難しい。保護者と連携して改善策を考えていく。	○教育者の皆様には大変な時期ですが、がんばっていただき自治会としても感謝し評価する。 ○私どもの時代から今迄、地域の方への「帰りました」「行ってきます」のあいさつができている事が春日部の自慢だ。元気なあいさつ運動が地域の人達にも広がっていけば良いなあと思う。 ○挨拶については春日部の子は元気よくできている。 △学校評価アンケートの結果から自主学習への児童に対する更なる意識付けが必要である。(家庭学習が習慣化している割合80%→75%) △読書等については、近年スマホやゲーム機器類が手軽に使え、遊んでくれるので自ら進んでの読書に支障が出ている。 △新型コロナの影響で春日部地区の自慢のものの見学をやりたいと思っていた事ができていない。コロナが早く終結にならないかと思う。 ・自治会、保護者の方々と協力し合い、子ども達にとって何が一番良いのか今以上に実施していきたいと思う。 ・この時期、家庭内での生活が大きな課題になるかと思う。保護者の方々も大変な時期、学習面では校内での学習が大きいと考える。 ・子どもを上手に育てるには、その子の家庭環境を知ることが、何よりも大切だと思うが、個人のプライバシー等があって難しいこともある。 ・家庭読書、家庭教育についての危惧は、コロナ禍で家庭で過ごす時間との比率を考慮すべきかもしれない。今後、はるべ塾を夏季だけでなく通年に拡大することが学習機会や地域とのふれあいの機会を拡大することにつながる。
教育課程	学習指導	○児童支援・新学習システム・特別支援教育支援員・介助員・多文化共生サポーター等と学級担任の連携による同室複数指導や個別指導による確かな学力の保障	A	・研究推進委員会を中心に全職員で連携をとりながら、アセスメントを基にした「個に応じた支援」に努めた。 ・児童生徒支援教員を中心とした昼休みの「のびのび教室」に取り組み、児童の主体的な学習の保障を行った。 ・「ひょうごがんばりタイム」を活用し、学習上支援が必要な児童に基礎・基本の定着を図った。 ・子どもたち同士の深い学び合いが実現できる授業を目指し、やってみたいと思わせるような発問の工夫など、児童が主体的に学べるような授業改善に向けた努力を行った。 ・算数や理科の学習において、新学習システム教員や児童支援教員による複数体制での授業を行い、学習内容の理解、定着を図った。 ・多文化共生サポーターと連携し、放課後学習をしたり、学校からの重要な手紙など翻訳したものを配布するなど、外国籍の児童やその保護者への支援を行った。	○研究推進委員会を中心とした取組は大いに評価できる。 ○支援が必要な児童に対し個に応じた指導や工夫がされている。 ○外国籍の児童・保護者の支援として、多文化共生サポーターとの連携は評価できる。 ・年少の頃は知識欲のかたまりのようなものだと思う。知らない事へのアプローチ欲をうまくくすぐることができれば思う以上に伸びてくれると期待している。
	指導方法の工夫改善	○授業のユニバーサル化に向けた授業改善の実施 ○主体的に学ぶための学習規律の定着 ○外国語教育、プログラミング教育の充実を図る取組	B	・授業のユニバーサルデザイン化により児童の実態に合った指導を行えた。学校評価アンケートの結果を見ても、「児童：学習がよくわかる93％（前年比＋7％）」「保護者：子どもがわかるように工夫している98％（前年比＋18％）」とあるため、手立てを打った授業展開が行えていると考える。 ・従来の教師主導型で展開している授業が多く、子どもたちが主体的に学んだり、学び合ったりする姿は少ない。11月以降の職員研修や職員会議の場で、子どもたちだけで学び、教師は支援者に回る授業を紹介したり、実践したりしているので、学習指導要領に基づいて、さらに研鑽を積んでいく必要がある。 ・健康観察を英語でしたり、月・曜日・天気などの絵カードを黒板に貼ったりし、身近なものから英語に親しめる環境づくりができた。 ・電子黒板が新しく２台増え、各学年、授業で活用している。プログラミング学習に関しては、高学年での実施にとどまり、全学年での実施はできなかった。来年度に向けたカリキュラム編成を再度行い、全学年で計画的に実施できるようにしていきたい。また、２月には、１人１台のタブレットＰＣを貸与した。今後、自立した学びを目指して日常生活や各教科等での有効な活用について研修を積んでいく必要がある。	○授業のユニバーサルデザイン化は、アンケートからも評価できる。 ○指導方法等、工夫改善により十分な工夫がなされていると評価する。 ○児童それぞれに応じた指導が行われている。 ○わかる授業に向けた取組が進められている。好奇心のわくような授業に務められている。 ・年度当初の休校措置により児童の学習面への影響が危惧されるため、配慮と対応が更に必要である。 ・外国語教育、プログラミング教育は、児童による地域住民への学習成果発表の場を求める。 ・先生方からの一方通行の教育は私らの時代からの教育方法であると思う。児童間で学び合う事を考えておられるのは良い事だと思う。タブレットPCでの双方向のやり取りは、私どもの時代では考えられない事である。教えてもらうより自立した学びを目指しているとあるので期待している。
課題教育	特別支援教育	○特別な支援を要する児童に対する共通理解・適切な教育支援・啓発の推進 ○認定こども園・春日中学校・こども発達支援センター等の専門機関等との連携	A	・児童の見取りをもとに、必要な手立てをチームで話し合い、実行することができた。また、その手立てが有効だったかを評価し、修正を加えながら行えた。今後は、職員会議等を活用し、有効だった手立てを全職員で共有できるようにしたい。 ・担任を中心に、機会をとらえて啓発ができた。 ・毎年同じ時期に引継日を設定したり、巡回相談に参加したりすることで、校種間のスムーズな連携が図れた。 ・保護者の相談内容に合わせて、その都度専門機関の紹介ができた。今後は誰でも活用できる一覧表に整理する。	○学校全体で適切な対応が図れるよう教職員で情報共有が行われている。 ○情報を全職員で共有すべく取り組まれている事は評価できる。 ・苦労の多い取組と思う。それだけに思うようになった時の達成感を感じた時の喜びは本当に大きい事でしょう。
	人権教育	○互いの違いやよさを認め合う温かい人間関係や信頼関係を育む学校・学級づくり ○道徳科や人権教育を通した規範意識と人権感覚の育成	B	・終わりの会で「いい所見つけ」や「ほめほめシャワー」等に取り組み、お互いの良さを認め合う場面を設けた。 ・６年生の総合的な学習の時間で水平社博物館の見学等の人権学習に取り組み、６年間の人権教育のまとめとして各自の人権宣言文を掲示し児童や保護者等に対して啓発を行った。	○互いを尊重し合えるような取組ができており、それが学校評価アンケートの結果からも伺える。 ○「いい所見つけ」「ほめほめシャワー」など評価できる。 ・平等と公平を理解していただき、差別を作らない学校生活をお願いする。 ・人権とは「いたわり」「認めあう」「助けあう」事と考えている。今年度は開催されなかった発表会、来年度は期待している。 ・人との関わりで、児童アンケート項目の3、11、12、13の結果は、各コメントに基づいた対応を求める。

※領域（3領域）　　学校運営、教育課程、課題教育
※評価の観点例（網羅するのではなく、各学校で観点を絞る）

領域	観点例
学校運営	学校経営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、 安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備　　等
教育課程	学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善　　等
課題教育	特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育　等

※達成状況　　Ａ：優れている　　Ｂ：おおむね良好　　Ｃ：やや改善　　Ｄ：要改善

自己評価の実施方法についての評価

○結果に結びつきにくい領域が多い中、アンケート等客観的な数値により評価ができている。
○評価項目の次に具体的な取組や目標が示されていると道筋がよく分かる。

学校関係者評価のまとめ

・保護者と児童アンケートを実施、昨年度との比較で5％以上の差があった項目についての考察と教育反省を基に各評価項目の達成状況について自己評価をした。数値化して評価しにくい評価項目もあり、客観的な評価と言えるかどうか分からないが、自己評価の結果を概ね肯定的に評価していただいた。
・コロナ禍により計画していたことが十分実施できていなかったり、オープンスクール等で授業参観していただいたりする機会が少なかったりしたため、次年度に向けた取組に期待する意見もあった。今後、更なる改善に取り組みたい。

学校関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

・危機管理として、新型コロナウイルス感染拡大防止・熱中症対策・不審者対策・防災体制の強化・いじめ防止・不登校ゼロを目指して取り組んだ。また、地域とともにある学校づくりを推進する中で、登下校時の見守りと本の読み聞かせボランティアの名簿登録、ふるさと学として丹波栗・黒枝豆の収穫体験・名人鉄人に弟子入り等を実施した。コロナ禍において学校行事の縮小や中止を余儀なくされ、授業を直接参観していただく機会は限られてしまったが、児童の安全を最優先するために適切であったとの評価を受けた。今後も状況に応じて臨機応援な判断をしながらも、積極的な学習活動の展開と情報発信に努めていく。
・算数科を中心にユニバーサルデザイン化に基づく授業づくりに取り組んだ。児童は落ち着いて学びに向かう姿勢が育っている。しかし、主体的・対話的で深い学びの実現にはまだ十分に至っておらず、学年によっては学力の定着に関して課題が残っている。また、プログラミング教育やＧＩＧＡスクール構想による一人一台のタブレットＰＣを活用した情報教育を推進し、自学自走できる自立した学びを目指して行く必要がある。学校での確かな学力を保障する授業づくりを目指すと共に、家庭・地域の教育との連携強化を図っていく。
・教育課程編成に当たっては、中央教育審議会の答申等の動向を見通しながら、新学習システム教員や専科教員等の組み合わせにより、高学年での教科担任制の導入を試み、各教科の指導の充実と中学校へのスムーズな接続を目指す。
・専門機関と連携した個別の教育的ニーズに応じた特別支援教育や共生社会を目指すインクルーシブ教育、多様な性の理解を含めた互いの違いやよさを尊重し合える人権教育の取組をさら推進していく。
・学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の運用２年目として、組織の再編成を行うと共に、本年度に作成したリーフレットを基に、学校教育の充実のための相互協力・支援体制、双方向の働きかけを一層発展させるように取り組む。

令和３年３月１日

学校名　丹波市立春日部小学校
校長名　上　月　　明　生　印